



笑う門には福来たる

校長 二瓶 亮

暦の上では、もうすぐ立春を迎えますが、寒さは今が一番厳しい時です。

新型コロナウイルス感染症とインフルエンザの同時流行も言われており、引き続き教育活動を行う際は、感染防止対策の徹底を図りつつ、リスクを抑えた計画を立てている状況です。事態の好転を信じて生徒、保護者の皆様には感染防止対策（マスクの着用、毎朝の検温、手指洗い、3密を避ける、風邪症状がある場合（同居家族を含む）は登校を控える）の徹底をお願いします。令和4年度のゴールまで御支援、御協力をお願いします。

さて、2023年を迎え、多くの人が新年の目標を決めてスタートを切り、もう一月が過ぎました。目標達成に向けての取組は順調に進んでいるのでしょうか。そんな中、3年生は県内の私立高校の入試を終え、続々と「合格」を手にしています。私立高校を第一志望としている人の多くは自分の夢や希望の実現に一番合っていると決めた高校に入学する権利を得ました。コロナ禍で我慢や制約を強いられた中、自らの力で勝ち取った「合格」の喜び、目標を達成した瞬間は、格別な思いだったことでしょうか。おめでとうございます。次は県公立高校を第一志望としている人たちの出番です。それぞれの目標達成に向けて最後まで努力を積み重ねて欲しいです。

目標を達成するために、また、勝負に勝つために必要なこととして「運」が取り上げられることがあります。しかし、「運」を自分の意のままにコントロールできる人はいません。「運」を味方に付けるにはどうすればよいか。私も含め、「神頼み」する人が多いかもしれません。岩手県にある花巻東高校野球部の佐々木洋監督は、「運」について「コントロールはできないが、引き寄せることはできる」という教を常日頃から部員に説き、同校を全国区の野球強豪校にしました。その教を実践し、活躍している選手と言えば、メジャーリーグ（アメリカの野球リーグ）の菊池雄星選手や大谷翔平選手がいます。野球ファンでなくても大谷選手が試合中、球場に落ちていたゴミを拾ってポケットにしまったり、折れたバットを拾って相手に笑顔で返したりした話は知っていることかもしれません。その行動は彼が高校時代に自分の目標を達成するために必要なことの一つとして「運」を取り上げ、それを勝ち取るために「あいさつ」「ゴミ拾い」「部屋掃除」「道具を大切に」「プラス思考」「応援される人になる」「本を読む」「審判さんへの態度」という8つの具体策を実践、今でも続けている当たり前の行動だったようです。菊池選手も自分の前に落ちているゴミは「神様が自分を試している」と捉えて当然のように拾うそうです。両選手が高校時代から培ってきた習慣が、卒業して10年以上経った今も身に付いているのです。どんな小さなことでも良い行いをすれば、いずれ「運」をつかめる。「運」をつかむために良いことをするのはなく、日々、良い行いをしていれば、それが当たり前になる。その結果、幸運が転がり込むことがある。それを自然とできるようになった時、「運」も味方に付けることができるようになるのかも知れません。佐々木監督は加えて「謙虚な姿勢、感謝を忘れないこと」も高校生たちに大事にさせ、「誰からも応援されるチームになる」ことを求めるそうです。そこで大切なのは「笑顔」。ピンチで苦しいときも決して腐らず、仲間を信じて「笑顔」でいること。これもその場の流れを変え、「運」を引き寄せるための重要な要素になるということです。笑う門には福来たるとはまさにこのことと感じました。

3学期も残り2カ月となりました。令和4年度のまとめをする時期、「運」を自らの行いで引き寄せて、目標達成へのアイテムに加えてみてはどうでしょうか。何か始めるのに「遅い」ということはありません。これからの社会を予測するのは困難と言われています。これからは自分にとっての課題は何かを自分で見つけ、様々な方法で解決に向けて進む力、多様な考えを持った人たちとの交流から自分の考えを確立する力が必要とされます。そこに「運」も味方に付けた生き方が幸せな人生を築くことにつながるのではないのでしょうか。「運」は神頼みではない。自ら引き寄せるもの。目標達成に向けて計画・実践すること、「運」を引き寄せるための善行を行うことで、このコロナ禍をも乗り切る。そんな吹上中学校でありたいと思います。